

真性多血症に関する情報はコチラ



- 真性多血症のいろいろなことがわかるサイト「骨髄増殖性腫瘍.net」
<https://www.gan-kisho.novartis.co.jp/mpn-info>

真性多血症を含む骨髄増殖性腫瘍の患者さんに、病気について理解を深めていただくことを目的として、情報を提供しています。真性多血症患者さんに起こりやすい症状をチェックできるシートがありますので、一度ご自身の症状を確認してみてください。

骨髄増殖性腫瘍患者・家族会からのお知らせ



- 骨髄増殖性腫瘍患者・家族会(MPN-JAPAN)サイト
<https://mpn-japan.org>

真性多血症を含む骨髄増殖性腫瘍は普段なかなか同じ病気を抱える患者さんに出会う機会の少ない希少疾患ですが、患者会では同じ病気で悩んだ経験をもつ患者さん・現在悩んでいる患者さんと出会えます。

一人で悩まずに、まずは同じ病気を抱える先輩患者さんに話を聞いてみてください。

患者・家族会の活動内容や、この病気に詳しい先生の情報はコチラ



- MPN-JAPANの活動内容や医学顧問などの紹介ページ
<https://mpn-japan.org/aboutus.html>

連絡先(医療機関・薬局)

ノバルティス ファーマ株式会社

JAK00065GG0009
2024年11月作成

真性多血症と診断された方・ご家族の方へ

真性多血症 ハンドブック

病気の基礎から検査、治療の話まで



監修 桐戸 敬太 先生 山梨大学医学部血液・腫瘍内科

目次

はじめに

しんせいいたけつしょう

真性多血症は、骨髄増殖性腫瘍の一部で、赤血球の過剰な増加を特徴とする「慢性的な血液の腫瘍」です。直ちに生命に影響することはまれですが、病気の進行に伴い血液が濃くなるため、血液の流れが悪くなり、さまざまな症状がみられるようになります。心筋梗塞や脳卒中といった生命を脅かすような合併症を引き起こすこともあります。また、体のだるさ、入浴後のかゆみといった全身の症状により、日々の生活に支障を来すようになります。

しんきんこうそく

そのため、真性多血症の治療では、心筋梗塞や脳卒中などの血栓症の発症を予防するとともに、さまざまな症状を緩和することが目標となります。患者さんの多くは治療によって症状の緩和がみられ、通常の日常生活を送ることができます。目標を達成するには病気を正しく理解して、適切な治療を受けることが大切です。

そこで、真性多血症に関する基本的知識をまとめた「真性多血症ハンドブック」を作成しました。ご自身の病気への理解を深めるために、本冊子をご活用いただければ幸いです。

I 真性多血症とは

病気の起こる仕組み	4
病気の特徴	5
病気によってみられる症状	6

II 真性多血症の検査

血液検査	8
遺伝子検査	9
骨髄検査	9

参考 真性多血症では、血栓症が起きやすくなっています。 10

参考 生活習慣病の管理と同様に血液細胞の量を管理することが重要です。 11

III 真性多血症の治療

治療の目標	12
治療の決め方	13

コラム 患者さん自身でも症状を評価して伝えることの重要性 15

参考 これらの症状を、年齢や体調のせいだと思いませんか？
～真性多血症による特徴的な10症状とは～ 16

参考 真性多血症患者さん用 症状チェックシート(簡易版) 18

参考 骨髄増殖性腫瘍 症状評価フォーム(詳細版) 20

治療法	22
-----	----

IV 日常生活における注意点

日常生活で心がけること	24
ご家族や周囲の方々へ	25

参考 高額療養費制度 26

参考 その他の医療費サポート制度 28

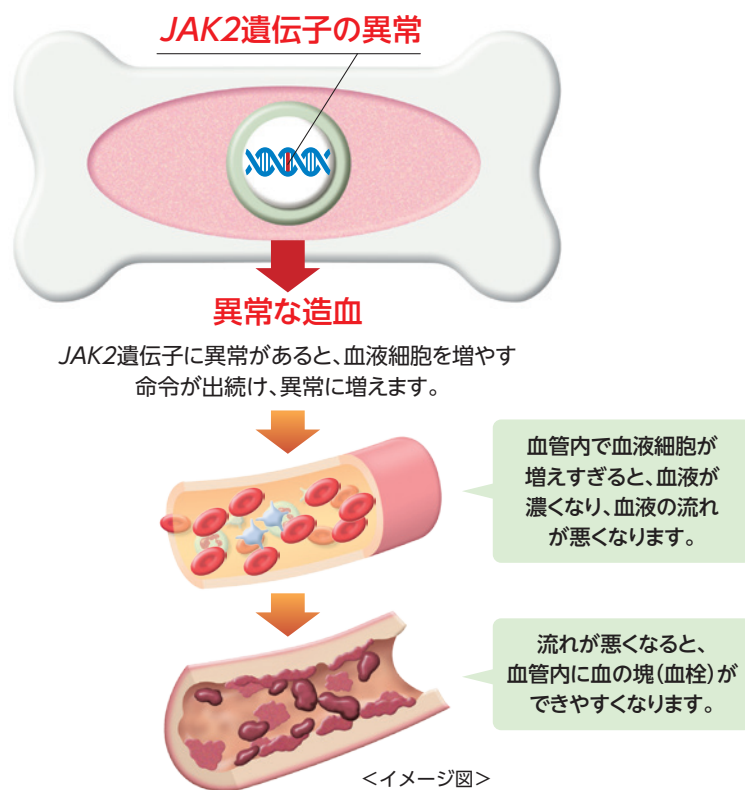
I 真性多血症とは

病気の起こる仕組み

しんせいいたけつしょう ジャックツー
真性多血症は、JAK2遺伝子の異常によって、血液細胞が異常に増えてしまう病気です。

●真性多血症における造血

JAK2遺伝子変異があると、血液が増えたり、ときに減ったりします。

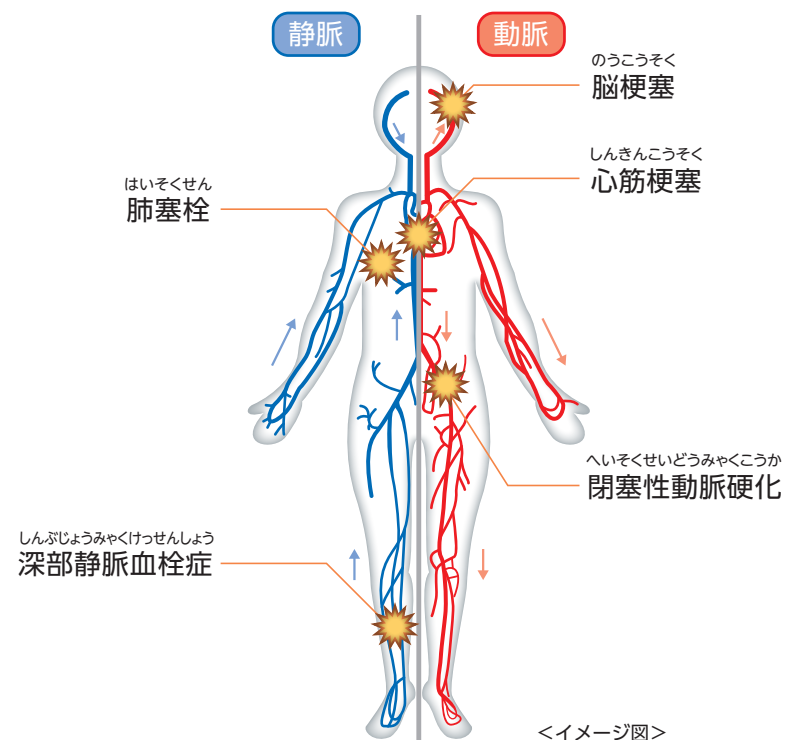


病気の特徴

- JAK2遺伝子に異常が生じることで発症します。
- 年間発症頻度は、人口10万人あたり2人程度と推定されます¹⁾。やや男性に多く、50歳～60歳に診断のピークがみられます。
- 多くの場合、赤血球だけでなく、血小板や白血球も増加します。
- 無治療でいると血栓症などの合併症により生命が脅かされるようになるため、診断後は血栓症の発症を抑える治療を行います。
- 経過中に、急性白血病や骨髄線維症など、まれに移行することがあります。

1) 小松剛夫、日本内科学会雑誌 2007; 96: 1382-1389.

●主な血栓症の種類と血栓が詰まる場所



病気によってみられる症状

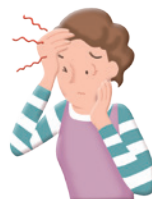
血液細胞が多くなることで、さまざまな症状が起きます。

病気の状態を把握するために、症状を定期的に評価することが大切です。

下記のような症状がないか、確認してみましょう

循環障害

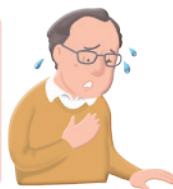
- 頭痛（片頭痛）・めまい
- チカチカ光る（閃輝暗点）
- 指先のピリピリ感（肢端紅痛症）
- 赤ら顔（顔面紅潮）
- 耳鳴り など



血栓形成

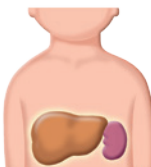
- 胸痛・胸が苦しい
- 動悸・冷や汗
- ろれつが回らない など

のうこうそく
・脳梗塞
しんきんこうそく
・心筋梗塞
はいそくせんしゅう
・肺塞栓症



肝腫大・脾腫

- 肝臓や脾臓が腫れる
- お腹の不快感（腹部不快感） など



<イメージ図>

その他

- 全身のかゆみ
- 高血圧
- 消化性潰瘍 など



症状を定期的に評価することで、病気の進行や命に危険を及ぼす合併症などに気づきやすくなります。

命に危険を及ぼす合併症や疾患

合併症

- 脳梗塞・心筋梗塞などの血栓症
- 脳出血や消化管出血などの出血性疾患

まれに移行することがある疾患

- 急性白血病
- 骨髄線維症

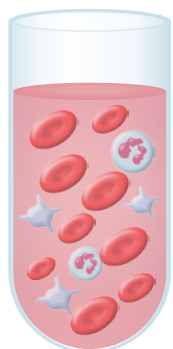
また、「診断時の脾腫（脾臓の腫れ）」や「治療中の白血球数 ≥ 1 万/mm³」だと急性白血病や骨髄線維症に移行しやすいとの報告がありますので、特に注意が必要です。

II 真性多血症の検査

血液検査

血液の濃さを評価するために血液細胞(赤血球、白血球、血小板)の量を確認します。

●血液細胞の量の目安



ヘマトクリット値* (赤血球の量)

 **45%未満**

参考

白血球数

 **1万/mm³未満**

血小板数

 **40万/mm³未満**

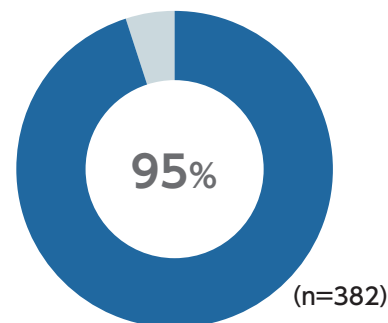
*日本のガイドラインでは、瀉血後のヘマトクリット値は45%未満にコントロールすることが推奨されています。

遺伝子検査

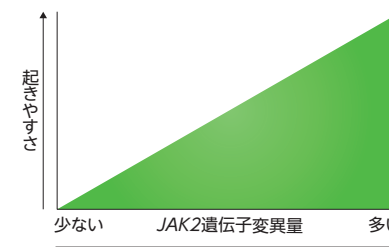
しんせいいたけつしょう
正確に真性多血症を診断するために血液を採取して、
遺伝子検査を実施します。

ジャックツ
●JAK2遺伝子異常がある
真性多血症患者さん

●JAK2遺伝子変異の量が多い場合、
「血栓症」「出血」「骨髄線維症への移行」
が起きやすくなるため、さらに注意が
必要です。



Klampfl T et al. N Engl J Med 2013; 369: 2379-2390.



Bertozzi I et al. Ann Hematol 2017; 96: 1297-1302. より作成

骨髄検査

正確な診断を実施するため、または骨髄線維症や
急性白血病への移行が疑われる場合に
骨髄検査を実施します。

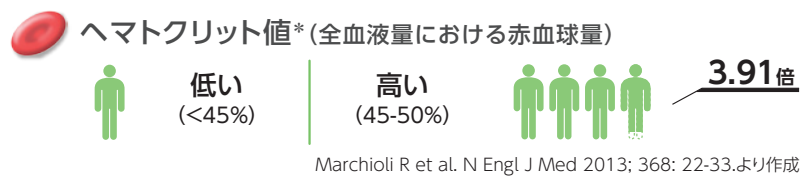


参考

真性多血症では、
血栓症が起きやすくなっています。

病気により「のうこうそく脳梗塞」「しんきんこうそく心筋梗塞」「しんぷじょうみやくけっせんしやう深部静脈血栓症」などの血栓症の発症リスクが高くなっているため、しっかりと治療しましょう。

●血液細胞の量でみた血栓症の発症リスク



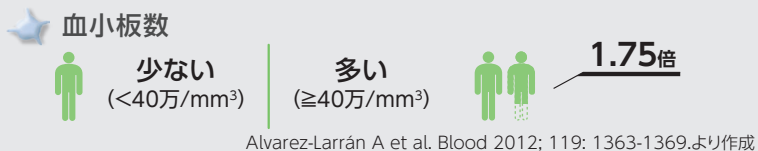
あなたのヘマトクリット値はいくつですか? %

*日本のガイドラインでは、瀉血後のヘマトクリット値は45%未満にコントロールすることが推奨されています。

参考



あなたの白血球数はいくつですか? /mm³



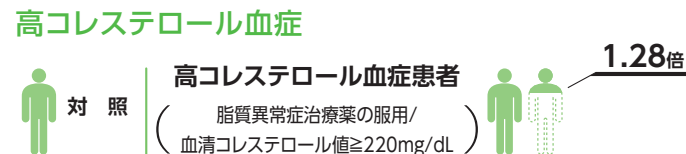
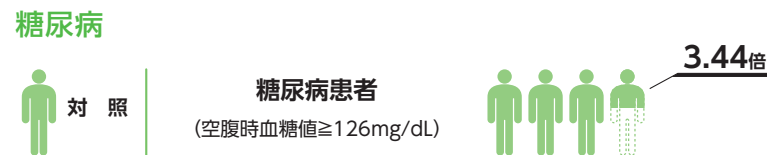
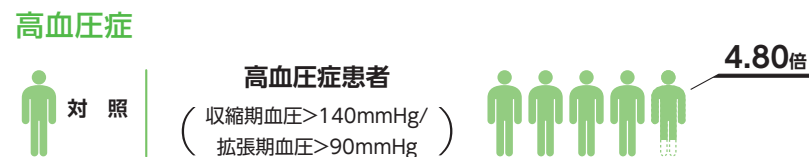
あなたの血小板数はいくつですか? 万/mm³

生活習慣病の管理と同様に
血液細胞の量を管理することが重要です。

一般的に、生活習慣病では血栓症が起きやすいとされ、血栓症を起こさないように目標値以下に治療することが重要です。

真性多血症患者さんも、生活習慣病における目標値の管理と同様、それぞれの血液細胞の量を目標値以下に管理することが重要となります。

●生活習慣病における血栓症(心筋梗塞)の発症リスク



方法：初発の心筋梗塞患者1,925例と年齢、性別を一致させた対照2,279例を比較した。

Kawano H et al. Circ J 2006; 70: 513-517.より作成

Ⅲ 真性多血症の治療

治療の目標

治療では、血栓症の発症を抑えること、症状を緩和しQOL(生活の質)を維持することが目標となります。

- 血栓症の発症を抑える
- 症状を緩和しQOLを維持する

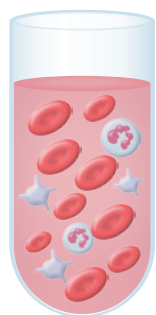


しんせいいたけつしょう

真性多血症における治療の主な目的は、血栓症などの予後に影響を及ぼす合併症の予防であり、主に赤血球などの血液細胞の量をコントロールする治療を行います。

また、かゆみなどの症状がみられる場合は、症状を緩和しQOLを維持するための治療もあわせて行います。

● 血液細胞の量の目安



ヘマトクリット値*1 (赤血球の量)

45%未満

参考

白血球数

1万/mm³未満

血小板数

40万/mm³未満

*1 日本のガイドラインでは、瀉血後のヘマトクリット値は45%未満にコントロールすることが推奨されています。

治療の決め方

年齢や血栓症の既往と発症リスクなどを総合的に検討した上で治療法を選択します。



*2 「血栓症の発症リスク」では、一般的に血栓症の発症リスクと考えられている『高血圧』『糖尿病』『脂質異常症』『肥満』などを検討します。

治療の中心は「瀉血療法」や「抗血小板療法(低用量アスピリン)」です。血栓症の発症リスクが高い場合は「細胞減少療法」を併用します。ご自身がどのリスクに当てはまるかチェックしてみましょう。

しんせいたけつしょう

● 真性多血症における血栓症のリスク分類

■ 低リスク

- 年齢<60歳
- 血栓症の既往なし
- 血小板数<150万/mm³
- 心血管病変の危険因子 (喫煙、高血圧、うっ血性心不全) がない

.....
以上のすべての項目を満たす

■ 高リスク

- 年齢≥60歳,
または血栓症の既往がある

低リスク群にも高リスク群にも当てはまらない場合は中間リスクとなります。

Tefferi A et al. Semin Hematol 2005; 42: 206.より作成

● 治療方針

■ 低リスク*1

瀉血+低用量アスピリン*3

■ 高リスク*2

瀉血+低用量アスピリン*3
+細胞減少療法

日本血液学会編. 造血器腫瘍診療ガイドライン2023年版, 金原出版, p107-108, 2023.より作成

*1 年齢<60歳、かつ血栓症の既往なし *2 年齢≥60歳、または血栓症の既往がある

*3 「アスピリン」は真性多血症に対して国内未承認です。

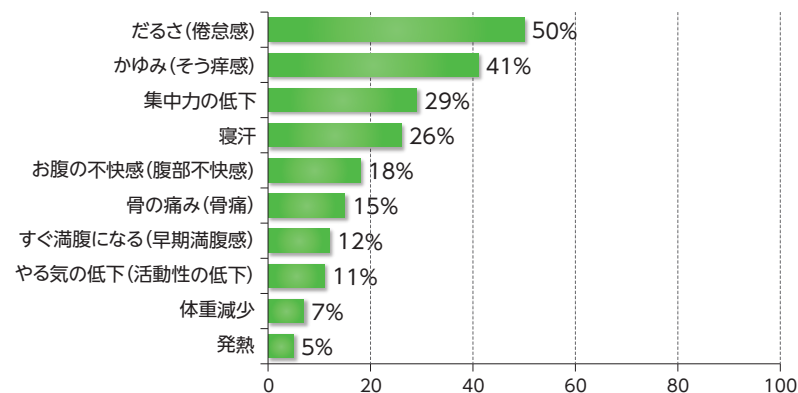
かゆみなどの症状がみられる場合は、その治療もあわせて行います。

コラム

患者さん自身でも症状を評価して伝えることの重要性

約半数の患者さんが自分のだるさ(倦怠感)・かゆみ(そう痒感)などの症状と真性多血症は関係ないと考えていました。食欲の低下など日々の症状の変化は、病状を確認する上でとても重要です。

特徴的な10症状が真性多血症により起きていると理解している患者さんの割合



グローバルMPN LANDMARKサーベイより作成
COI:本調査はノバルティスの資金により行われた。

グローバルMPN LANDMARKサーベイは2016年4~10月に英国・ドイツ・イタリア・日本・カナダ・オーストラリアで実施された調査です。調査の目的は「真性多血症が患者さんの日常生活などに、どのような影響を与えるかについて理解を深める」とされ、真性多血症患者さん223例などにオンラインでアンケート調査が実施されました。評価項目は「症状が真性多血症により起きていると認識しているか」などとされました。

より良い治療を選択するためには、患者さん自身で症状を確認し、主治医に伝えることが大切となります。

参考

これらの症状を、年齢や体調のせいだと思っていないですか？

～真性多血症による 特徴的な10症状とは～

だるさ
(倦怠感)

- ・少し動くと、すぐに休みたくなる
- ・疲れやすく階段を上げるのが大変
- ・朝、起きるのがつらい

やる気の低下
(活動性の低下)

- ・仕事、趣味、人付き合いなどが思うようにできない

かゆみ
(そう痒感)

- ・お風呂に入るとかゆみが強くなる

骨の痛み
(骨痛)

- ・骨痛のため就寝中に目が覚める
- ・安静にしているでも骨が痛い

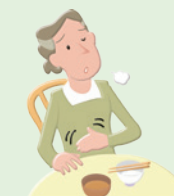


寝汗

- ・睡眠中、下着やパジャマ、シーツを交換するほどの汗をかく

すぐ満腹になる
(早期満腹感)

- ・食事の量が前より減少している
- ・食欲はあるけど、一度の食事でも量が食べられない



集中力の低下

- ・集中して本や新聞を読むことができない



体重減少

- ・体重が減った
- ・洋服のサイズが合わなくなった

お腹の不快感
(腹部不快感)

- ・お腹が張った感じ
- ・お腹が押さえられるような感じ



発熱

- ・体が熱っぽい
- ・熱がある感じがする








参考

真性多血症患者さん用 症状チェックシート(簡易版)

実際に特徴的な10症状があるかどうか、「症状チェックシート」で確認してみ
 ここ1週間のことを思い出して「すごくある」「ある」「ない」のいずれかに○を
 「体重減少」については、ここ半年のことを思い出して「すごく減った」「減っ

ましよう。
 してください。
 た」「減っていない」のいずれかに○をしてください。

特徴的な10症状		○をしてください
	だるさ(倦怠感) 例えば ● 少し動くと、すぐに休みたくなる ● 疲れやすいと感じる	<input type="radio"/> すごくある <input type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
	かゆみ(そう痒感) 例えば ● お風呂に入るとかゆみが強くなる	<input type="radio"/> すごくある <input type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
	寝汗 例えば ● 睡眠中、下着やパジャマ、シーツを交換するほどの汗をかく	<input type="radio"/> すごくある <input type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
	集中力の低下 例えば ● 集中して本や新聞を読むことができない	<input type="radio"/> すごくある <input type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
	お腹の不快感(腹部不快感) 例えば ● お腹が張った感じ ● お腹が押えられるような感じ	<input type="radio"/> すごくある <input type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない

特徴的な10症状		○をしてください
	やる気の低下(活動性の低下) 例えば ● 仕事、趣味、人付き合いなどが思うようにできない	<input type="radio"/> すごくある <input type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
	骨の痛み(骨痛) 例えば ● 骨痛のため就寝中に目が覚める ● 安静にしても骨が痛い	<input type="radio"/> すごくある <input type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
	すぐ満腹になる(早期満腹感) 例えば ● 食事の量が前より減少している ● 食欲はあるけど、一度の食事で量が食べられない	<input type="radio"/> すごくある <input type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
	体重減少 例えば ● 体重が減った ● 洋服のサイズが合わなくなった	<input type="radio"/> すごく減った <input type="radio"/> 減った <input type="radio"/> 減っていない
	発熱 例えば ● 体が熱っぽい ● 熱がある感じがする	<input type="radio"/> すごくある <input type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない

Mesa R et al. BMC Cancer 2016; 16: 167.より作成

この「症状チェックシート」で、気になる症状や困っている症状がある場合は、

次のページの「骨髄増殖性腫瘍 症状評価フォーム総症状スコアMPN-SAF TSS」を付けてみましょう。

参考 骨髄増殖性腫瘍 症状評価フォーム（詳細版）

しんせいいたけつしょう
「真性多血症患者さん用 症状チェックシート」
で気になる症状がある場合は、病気の進行や治療の効果をより正確に評価するためにも「骨髄増殖性腫瘍 症状評価フォーム総症状スコアMPN-SAF TSS」を付けて、受診する際に持っていきましょう。
治療の前後でスコアがどう変わったかを記録し、主治医に伝えるようにしましょう。症状の変化について主治医と情報共有することは、より良い治療を受ける上で重要です。



1 記入日と次回受診日を記入してください。
可能な限り、次回受診日の直前から約1週間前までの間に感じた症状の程度を評価してください。

2 症状の程度を最もよく表す数字1つに を付けてください。
例) ・だるさ(倦怠感、疲労感):これ以上考えられないだるさを「10」としてください。数字で表せない場合は、下記の自由記入欄に記載しておいてください。
・発熱の場合は37.8℃以上の発熱が毎日あった場合を「10」としてください。

3 全ての記載を確認したら点数を合計してください。

4 10項目の症状以外に頻繁に感じた症状や、その他気づいたことなどは、自由記入欄に記載しておいてください。

これらの内容は真性多血症患者さん向け疾患情報サイト「骨髄増殖性腫瘍.net」にも掲載されています(リンク・二次元コードは裏表紙をご参照ください)。

日本版 骨髄増殖性腫瘍 症状評価フォーム総症状スコアMPN-SAF TSS*
*Myeloproliferative Neoplasm - Symptom Assessment Form Total Symptom Score

患者さん記入用

お名前 記入日 月 日 次回受診日 月 日

この症状評価フォームでは、患者さんの症状を記録できるようになっています。それぞれの症状について、症状の程度を最もよく表す数字1つに を付けてください。該当の症状が「なし」の場合を「0」とし、考えられる「最悪の状態」を「10」とします。全ての症状の程度を記入し、受診時に主治医に見せてください。

この24時間内に感じた最も強いだるさ(倦怠感、疲労感)について一番よく表す数字1つに を付けてください。
なし これ以上考えられないほどのだるさ

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
24時間内に感じた最も強いだるさ(倦怠感、疲労感)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

この1週間に経験した症状の程度を最もよく表す数字1つに を付けてください。
なし 最悪の状態

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
食事の際、すぐに満腹感を感じる(早期満腹感)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
腹部不快感	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無気力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
集中力に関する悩み(発病前と比較して)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
寝汗	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
かゆみ(激しいかゆみ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
骨の痛み(関節痛や関節炎以外の広範な痛み)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
過去6か月にわたる意図しない体重減少	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
なし											毎日
37.8℃以上の発熱	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

自由記入欄(その他の症状、気づいたこと)
上記10項目について数字を合計してください

監修: 宮崎大学医学部 内科学講座 血液・糖尿病・内分泌内科学分野 下田 和哉 先生

20

21

治療法

治療法には、^{しゃけつ}瀉血療法、抗血小板療法、細胞減少療法があり、患者さんの年齢や血栓症の既往などを総合的に検討した上で治療法を選択します。

瀉血療法

瀉血とは、献血と同じように静脈から血液を抜き取ることであり、赤血球の量を減らすことで血栓をできにくくする治療法です。高齢の患者さんや心血管系に問題がある場合は、瀉血量や頻度を調整します。



抗血小板療法

アスピリン*などを服用して、血栓をできにくくする治療法です。薬にアレルギーがある場合や消化性潰瘍がある場合、アスピリン喘息がある場合は、注意が必要です。

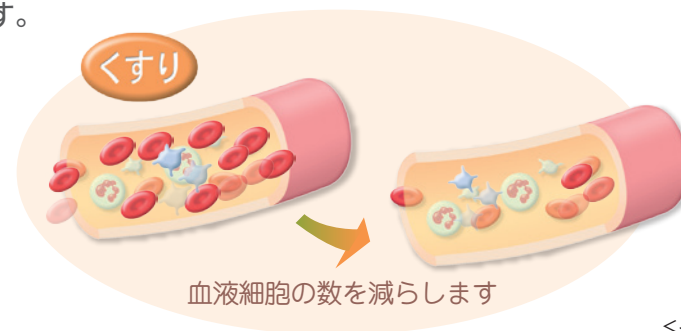


*「アスピリン」は真性多血症に対して国内未承認です。

細胞減少療法（抗がん剤）

抗がん剤を使って血液細胞の数を減らし、病気をコントロールする治療法です。

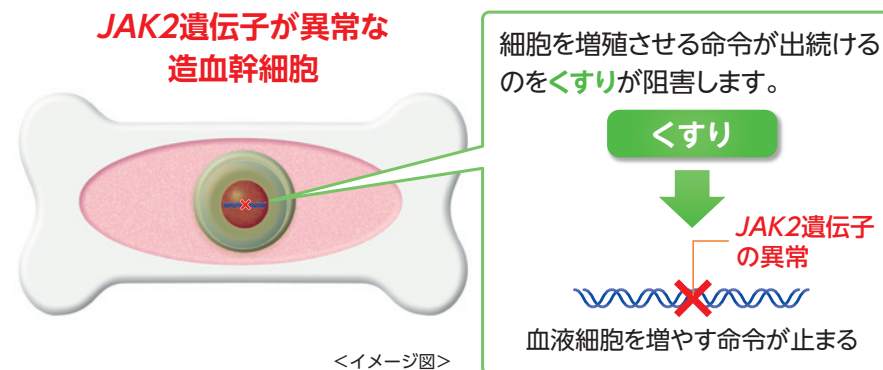
年齢が60歳以上または血栓症の既往がある方、他の治療で血液細胞のコントロールが難しい方など血栓症のリスクが高い患者さんが主な対象となります。



<イメージ図>

細胞減少療法（JAK阻害剤）

病気の原因となる「JAK2」に作用する「JAK阻害剤」と呼ばれる治療薬（分子標的治療薬）を使って血液細胞の数を減らす治療法です。



<イメージ図>

このほか、インターフェロン製剤（ロペグインターフェロン アルファ-2b）の注射が細胞減少療法に新たに用いられています。

IV 日常生活における注意点

日常生活で心がけること

血栓症の予防には、心血管病変の危険因子を減らすことも大切です。

心血管病変の危険因子とは高血圧症、肥満、糖尿病、脂質異常症、喫煙のことです。特に喫煙により、血栓症が発症するリスクはさらに高まるといわれていますので、禁煙を心がけましょう。

- 水分をこまめに補給しましょう。
- 鉄剤や鉄サプリの摂取は控えましょう。
- 長時間同じ姿勢での移動が必要な場合は、主治医に相談しましょう。
- 禁煙を心がけましょう。
- 適度な運動とバランスのよい食事を心がけましょう。
- ストレスをためないように心がけましょう。
- 手術や抜歯などが必要な場合には、あらかじめ主治医に相談しましょう。
- 体調がおかしいときは、すぐに主治医に相談しましょう。



ご家族や周囲の方々へ

しんせいいたけつしょう
真性多血症の患者さんの多くは治療によって日常生活を送ることができます。
ただし、しんさんこうそく
脳卒中や心筋梗塞などの合併症の予兆を見逃さないことが大切です。



チェックポイント

● 脳卒中

- 片方の手足・顔半分にマヒ・しびれが起こる
- ろれつが回らない、言葉がでない、他人の言うことが理解できない
- 力はあるのに、立てない、歩けない、ふらふらする



● 心筋梗塞

- 締め付けられるような激しい痛みが起こる
- 上記の症状が15分以上続く



● 出血性症状

- 鼻血が出る
- 胃が痛む
- 黒い色の便(タール便)がみられる



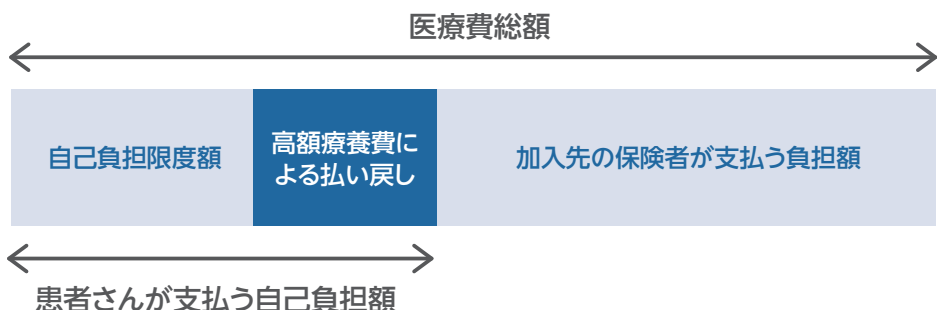
<イメージ図>

このような症状がみられた場合には
すぐに病院を受診してください。

参考 高額療養費制度

医療機関へ高額な医療費を支払ったときは、^{こうがくりょうようひ}「高額療養費制度」で払い戻しが受けられます。

高額療養費制度とは、同一月(1日から月末まで)にかかった医療費の自己負担額が一定の金額(自己負担限度額)を超えた場合、超えた分が後ほど払い戻される医療保険制度です。



高額療養費制度について、詳しく解説した小冊子もご用意していますので、主治医もしくは医療機関のスタッフにご相談ください。



*本制度は、加入されている医療保険、市区町村によって内容が異なる場合があります。詳しくは、保険加入先(健康保険証をご確認ください)にお問い合わせください。

主な内容

- ・高額療養費とは
- ・支給を受けるには
- ・自己負担限度額
- ・算定方法
- ・活用事例

など

治療にかかる費用について

高額療養費制度では、年齢および世帯の年収によって自己負担限度額が異なります。具体例でみましょう。

具体例

処方せんによる薬を受け取った薬局での費用が自己負担限度額を超えた場合
(69歳以下、所得区分が年収約370万～約770万円の方)

A病院 医療費 70,000円 支払額(3割) 21,000円*1

B薬局(A病院の処方せん)

医療費 300,000円 支払額(自己負担限度額) 80,430円*2

「限度額適用認定証」を提示
(4回目以降は44,400円*3)

*1 A病院の医療費は、自己負担限度額を超えていないため、いったん医療費の3割を支払い、その後、保険者に申請し、払い戻し金(20,300円)を受け取ります。B薬局の自己負担額と合算することで、高額療養費の支給対象となります(69歳以下の方は21,000円以上の自己負担のみを合算できます)。

*2 B薬局の自己負担限度額=80,100円+(医療費-267,000)×1%=80,100+(300,000-267,000)×1%=80,430円

*3 高額療養費の支給を同一世帯で1年間(直近の12ヵ月)に4回以上受ける場合には、4回目からの自己負担限度額が44,400円となります。

2024年11月現在

参考 その他の医療費サポート制度

こうがくりょうようひ
高額療養費制度以外にもさまざまな医療費負担を軽減できる制度
があります。それぞれの窓口を確認してみましょう。

1 民間の医療保険(がん保険など)

しんせいたけつしょう
真性多血症は、民間の医療保険(がん保険など)の
対象となる可能性があります。

加入している保険会社の窓口
に問い合わせましょう



2 付加給付制度

一部の健康保険組合や共済組合が独自に定める医
療費助成制度です。高額療養費制度と同様に、一定
の金額を超えた場合、医療費の払い戻しを受けるこ
とができます。また、治療と就労をサポートするた
めの制度が設けられている場合もあります。

加入している保険組合の窓口
に問い合わせましょう



memo

memo
